
ボクノセカイ1

みあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボクノセカイ1

【コード】

N5669K

【作者名】

みあ

【あらすじ】

この物語は一人の少年が親友の閉ざされた心の扉を開きに行く話です。

親友の異変

僕と音亜はずっと仲良しだった。僕の名前は島谷歩。親友の竹林音亜は幼稚園の時から、ずっと一緒だった。だけど最近音亜の様子がおかしかった。声をかけても返事をしない。一緒にいても、すぐどこかへ行ってしまふ。

「音亜。今日一緒に帰ろうぜ。」

「……。」

あいかわらず返事をしない。もしかしたら最近僕はクラスの中で人気者になったからあまり声をかけなくなった事に対して怒ってるのかな。音亜はクラスの中ではあまり話さない。唯一話するのが僕だけだった。

「音亜。何で何も話さなくなったの？」

「歩には関係ない話だ。」

「歩！こっち来てトランプやろーぜ！」

他のクラスメイトに呼ばれる。

「行ってこいよ。俺にかまうなよ。」

「でも。」

「歩！早くしろ〜」

「じゃ。」

そう言つて音亜は教室を出て行ってしまった。

「あゝゆむ」

彼女は僕の幼なじみの外山勇亜だった。

「勇亜。何？」

「今日一緒にかゝえろ。いいでしょ？家近いしさ。」

「まあいいケド。」

正直最近の勇亜は好きになれなかった。昔の方が素直だったし。色気なんてださなかったし。でも。高校生になってから、色々な男に色気付いて。変わってしまった。僕の周りの人は、皆変わっていつ

た。

「あ〜ゆむ どうしたのお？元気がないよ。大丈夫う？」

そして何より勇亜を嫌いになった理由が何か話す時とか語尾をあげて話す事だった。

「音亜。最近付き合い悪くて。あいつ何か僕に隠してると思う。勇亜何か知らない？」

「んーん。しらなあーい。てか音亜と仲いいのお？ありえなくいい（笑）」

「歩の事。バカにするな。」

「あ。ゴメン。」

いくらの勇亜でも音亜をバカにする事は許さなかった。

「じゃあ。僕はこっち曲がるから。」

やっと一人で帰れる。そう思った瞬間勇亜に腕をつかまれる。

「何？」

「あの。その。実は私。歩が好きなの。お願い付き合って。」

まさかの展開だった。

「ゴメン。」

僕は言葉を捨てるようにいい、その場を立ち去った。トボトボ歩いて行くと、いつのまにか音亜の家の前にいた。

「あ。ここ音亜の家。よってこ。」

ベルを鳴らす瞬間中から、ガラスが割れる音がする。

「えっ？ちよつと開いてないかな。」

ドアに触るとドアにはカギがかかっていた。静かに開け、中に入る。するとリビングには、歩と歩の両親と歩の妹がいた。

「お兄ちゃん。お母さん達怖いよ。」

「大丈夫だよ。花音。大丈夫。」

花音とは音亜の妹である。

一体この家で何が起きたんでしょうか

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5669k/>

ボクノセカイ1

2010年10月9日03時37分発行